

豊平館で創立 35 周年を祝いました！



2022.10.30 《第36回定例総会》(出席者20人・委任状49通/会員数99人)では、各議案が過半数の賛成で議決されました。詳細は10～11頁をご覧ください。

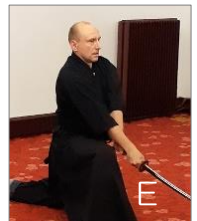
《創立35周年祝賀会》には44人(うちポーランド人・家族20人)が参加しアトラクションを楽しみました。シロンスク舞踊団から祝辞を頂きました。

▶スライドショー「本会の35年」(小笠原正明、ジェプカ・ラファウ)、「NNW 国際映画祭 @グディニヤ」(浅野由美子)

- ▶イベント紹介「ポーランド・アイス『祖霊祭』夜明け前/シンストラッパ・クンネニサツ」2022.11.28(丸山博)
- 「創立35周年記念演奏会」2023.6.3(ピアノ演奏:安藤むつみ、坂田朋優・鈴木飛鳥 =写真 A=、徳田貴子)

———— ポーランドのみなさんのパフォーマンスにも拍手！があふれて ————

- ▶歌(ソロ)数井バルバラ:ヴァリウス・マヌクス「夜の歌」 Varius Manx “Piosenka Księżycowa”, (皆で)リシャルド・リンコフスキ「電車が走っている」 Ryszard Rynkowski “Zwierzenia Ryśka Czyli Jedzie Pociąg” =写真 B&C=
- ▶詩(朗読)佐藤レミリア:ヤン・ブジェフファ「変なアヒル」Jan Brzechwa “Kaczka dziwaczka”, オレーヤージュ・シルヴィア:ハリナ・ポシフャトフスカ「多くの簡単な単語が必要」 Halina Poświatowska “Trzeba nam dużo prostych słów” =写真 D=
- ▶パフォーマンス:フバチ・ロベルト/居合の技 =写真 E=
- ▶パズル・クイズ:ポーランドの街・日本の街など (安藤厚、写真 尾形芳秀)



木村和保(Kazuyasu Kimura-Piłsudski)氏逝去

かねてより白血病と格闘中だった木村和保氏は2022年12月14日夕刻、合併症のクモ膜下出血により急逝された。享年68。和保氏が代表取締役を務めたケーシーエンジニアリング社と木村家の合同葬(19日通夜、20日葬儀)は、新横浜総合斎場にてしめやかに執行され、パヴェウ・ミレフスキ駐日ポーランド共和国大使、ウルシュラ・オスミツカ・ポーランド広報文化センター所長、田澤守エンチウ協会々長、安藤厚本会々長からも弔電が寄せられた。

ブロニスワフ・ピウスツキの孫である和保氏は1980年代以降、日本におけるピウスツキ家の当主として国内外で取材に応じ、4度の B・ピウスツキ国際会議でもその重責を全うされた。99年からはブロニスワフの実弟ユゼフ・ピウスツキ元帥の孫たちと親戚付合いを開始、家族ぐるみの交流を重ねていた。和保氏はピウスツキ家全体で最後の男系嗣

子だったから、ポーランドでは Kazuyasu Kimura-Piłsudski と称されることもあったが、由緒正しいリトワニア系ポーランド士族のピウスツキ家はかくて終焉を迎えた。



2017年4月、和保氏は祖母(ブロニスワフの妻)チュフサンマの叔父・木村愛吉/バフンケの遺骨返還を北海道大学へ要求した。1936年8月、児玉作左衛門北大教授はバフンケの墓を暴き、遺骨を同大医学部に私蔵していたからだ。2018年7月、北大は同遺骨の和保氏への返還を決定するも、詰めの折衝が断続する間にコロナ禍が出来、折衝は中断されていた。和保氏は死の床で、同事業の未完を痛く悔やんだに相違ない。

(井上紘一、北大名誉教授、会員、遺影 木村家提供)